

「プレスネット」(vol.908)
平成 30 年 6 月 7 日掲載



日本人にとって最も身近な花の一つとして桜があげられる。古事記や日本書紀にも桜(野生種のヤマザクラ)が記述され、古くから花を觀賞し、桜の開花が春の農作業の開始時期であった。奈良吉野の千本桜が最も有名で、3万本以上のヤマザクラが咲いた景観は見事であり、歴史的にはこの品種を人為的に増殖して觀賞し

サクラを巡る話題 ①

池田 秀雄 (理学博士)

ヤマザクラ・ソメイヨシノの特徴

都豊島区)の植木屋で交雑によりつて作出されたもので、元の1個体の枝から、挿木によつて苗が生産されたため、日本各地に植えられているものは全て同じ遺伝子組成(クローン)である。明治時代

一方、今日一般に花見と称して用いるものは意外に新しく、ソメイヨシノという品種である。

この品種は江戸時代末期に江戸染井村(現在の東京

以降、帝国陸・海軍の象徴として、日本中の軍施設や学校に広く植栽された。戦後も学校や公園に植え続けられている。

ソメイヨシノは温度感受性が高く、桜前線と呼ばれた。かつては桜の開花は入学

式とともにあったが、歴による人間の営みと、自然の営みとの間でずれ始めているようである。

これも地球温暖化のせいとも考えられる。ソメイヨシノは病害や虫害に弱く、

100年以上経過すると樹勢が衰えてしまい江戸期以来の古木はほとんど残っておらず、明治期に植えられたものは樹勢が衰えている。花見で木の根元を踏み固めない、枝を折らないなどのマナーを守るとともに、施肥やそれなりの管理が必要である。

広島大学マスタースは、広島大学を退職した教職員で組織しています。市民を対象にした講座も行っています。
【問い合わせ】
kazuwp@hiroshima-u.ac.jp (渡部)



過去の記事